

3月16日(水)

本年度第33回(通算2579回)12時30分～

『職場移動例会』

日本製紙(株)釧路工場  
釧路エヌピー紙工(株)

担当/職業奉仕委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

・天野 実様	日本製紙株式会社釧路工場	管理部総務グループ長
・辻 真治郎様	釧路エヌピー紙工株式会社	管理部総務G
・岡田 拓様	野村証券株式会社	釧路支店長

☆メイクアップ

☆出席報告【会員総数65名 免除11名 出席計算に用いた会員数65名】

次週の報告とさせていただきます

☆ニコニコ献金(今年度累計 533,000円)

- ・災害義援金、皆様宜しくお願い致します 三原克也君、泰地浩幸君
- ・石巻工場被災の中、移動例会を開催していただき有難うございました 徳山淳一君
- ・2年間大変お世話になりました 百枝信二君
- ・誕生日を無事迎えることが出来ました 大友 淳君

☆会長挨拶

皆さん、今日のご苦労様です。

まず、3月11日東日本を襲った国内史上最大の地震で、大津波により多数の方が亡くなられ、いまだ多くの方が行方不明となっております。この地震による被害状況はテレビ、新聞等の報道により常時伝えられているところありますが、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、釧路、根室地方に起きましても沿岸部を中心に深刻な被害と、大きな損害が出ておりますが、このような状況の中におきまして、本日当クラブ職場訪問移動例会にあたり、日本製紙(株)釧路工場様、釧路エヌピー紙工(株)様のご理解とご協力を頂き、この施設をお借りして例会開催させていただきましたことに感謝とお礼を申し上げます。これから、釧路の新聞用紙生産の基幹工場として生産活動を続けて折られる現状を、日本製紙(株)管理部、総務・製品グループ長、天野様よりご説明頂き、工場見学を兼ねて勉強させていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

☆幹事報告

- ①本日の回覧は次週といたします。
- ②19日のIMが延期となるかもしれません。詳しいご案内が届き次第ご連絡致します。
- ③地区事務所より「東北地方太平洋沖地震」への義援金のお願いが来ております。  
当地区にも被災者がおりますが、ご協力お願い致します。
- ④台湾宜蘭RC様より災害見舞いの連絡がありました。又、5月16日の宜蘭RC様の周年に出席の依頼が来ていますので多数のご参加をお願いします。

日本製紙株式会社 釧路工場 ～新聞用紙生産のスペシャリスト～



釧路工場では新聞用紙、中質本文用紙、電話帳用紙を生産しています。これら製品の輸送は船輸送が主体であり、古紙とのラウンド輸送を行うことで、効率のよい、輸送体制を実現しています。国内においては、関東、関西、中部地区でその仕向先のほとんどを占めています。また、中国や東南アジアを中心に輸出も行っています。



木材チップの使用量は年間約32万トンで、すべて針葉樹です。資源の有効利用の観点から、製材工場で発生する端材が主体になっています。使用するチップの約45%を輸入し、釧路西港からベルトコンベアーで直接搬入するなど、省力化にも努めています。



古紙の使用量は年間約32万トンで、原料の約70%を占めています。使用している古紙の種類は新聞古紙はもちろん、チラシ、雑誌、電話帳古紙にまで広げ、環境にやさしいリサイクルを推進しています。



DIP(古紙パルプ)は省資源・省エネルギー・省コストに優れますが、異物除去や脱インキが不十分だと使用が制限されます。当工場では新技術を積極的に導入して品質面での制約を克服し、新聞用紙への古紙配合70%を実現しました。



パルプ製造工程から送られた原料は抄紙機へ送られ、脱水・乾燥工程を経て、紙が出来上がります。釧路工場では、3台の抄紙機合計で年間約40万トンの紙を生産しています。最新鋭の設備により、厳しい品質管理のもと製造された製品は、首都圏をはじめとする大都市へ出荷されています。釧路工場をはじめとする日本製紙の新聞工場では、『新時代対応の高品質新聞用紙をユーザーに供給する』ことをコンセプトに、裏抜けが少なく、カラー印刷に適した新聞用紙の中性紙化を実施しました。

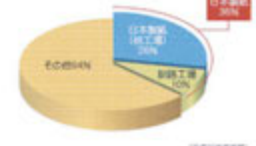


KP(化学パルプ)は塩素を使わない漂白方法で製造されているので、クロロホルムなどの有害物質をほとんど出さない人と環境にやさしいパルプです。また、繊維が強いという特徴を持っているのでリサイクル性にも優れています。

新聞工場の製品の仕向先



新聞用紙販売シェア



チップの入荷先



古紙の入荷先



石炭の入荷先

